



主任コラム12月号

主任 澤井 良子

先日、年長児が近隣の小学校へ就学に向けての見学に行きました。学校では、チャイムが鳴ったらどうするのか、休み時間をどう過ごすのか、授業をどのような雰囲気や姿勢で行うのか・・・などを、小学校の先生が案内される中で各学年の様子をみてきました。学校は勉強するところということは、子ども達は分かってはいるものの、実際に目でみることでイメージも沸いてきたようで「学校行くのがちょっと楽しみになってきた」と言っている子もいました。2月には毎年1年生との交流の中で、パソコンの授業の参加や体育の授業の一貫で集団遊びをします。今のこの時期に学校の様子を知ることができ、就学前に向けて小学校の時間の過ごし方などを意識しながら保育をしていきたいと思いました。今年度初めての試みではありましたが、小学校との結びつきや連携も取りながらスムーズな移行がとれて、安心して子どもたちが小学校生活をスタートできたらいいなと思います。



11月17日・18日と東京へ研修に行かせていただきました。施設見学をする中で保育環境や子どもの主体性を大事にした保育の実践を学ぶことができました。今回の研修のテーマが「主体性」だったのですが【自発的】とは、誰からの指示がなくても、自分の内面から自然にやる気が生まれて行動を起こすことを指し、【主体的】とは、現在の状況を自分なりに捉え、自らの判断と責任において行動することを意味します。どちらも自らの意思で行動する点では似ていますが、目的を設定して責任を持って自ら行動するという所では違いがあります。子どもたちを見ていると、自分の思いを伝えるという事がここ数年でできるようになってきたと思います。その次として、相手の思いに共感するということや、人と違った意見を持つこともそれを伝えることも間違いではない。けれども、1人1人違った意見をどのように折り合いをつけていくのかということや、どう保育していくのが私たちの課題でした。年長児の活動では子どもだけで話し合い・折り合いをつけて何日もかけながら物事を決める機会を作りました。3・4・5歳児の中では、大人が介入するのではなく、子ども達で話し合い、時間をかけながらもどの子も納得がいく答えを見いだせるように現場の保育士達が関わってきました。その力は子ども達についてきたとは思いますが、次の保育士から子ども達への課題として、自分達で物事を考えて決められるようになることかなと思います。例えば、食事・活動・ゾーンの片付けなどは自分で決められていますが、これからは、週の活動も子ども達で考えたり、選択活動で経験したことを伝えたり、子ども会議をしたりと大人が考えて用意してきたことを自分たちで選択・参画・参加するような保育を展開していきたいと考えています。

